

活動成果報告書

令和3年度（第25回）「チョダ地域保健推進賞」

活動テーマ ショッピングモールから始める認知症の人が自分らしく安心して暮らし続けられるまちづくり	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 大和市役所 健康福祉部 人生100年推進課 代表者：青木 裕子	認知症普及啓発に関する掲示 R3.6「認知症のもしも・・・」 
勤務先：大和市役所 所 属：健康福祉部 人生100年推進課 認知症施策推進係 所在地：〒242-0004 神奈川県大和市鶴間1-31-7 TEL：046-260-5612 FAX：046-262-0999	

◇活動方針

大和市は、平成28年、市の認知症の人の推計が近い将来1万人になることに備え、認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちを目指し、「認知症1万人時代に備えるまち やまと」を宣言し、積極的に認知症施策を推進してきた。令和3年9月には、認知症の人が地域において尊厳を保持しつつ人々と共生するまちを目指し、「大和市認知症1万人時代条例」を制定し、引き続き認知症施策の総合的な推進を図っている。

これまで大和市は、認知症の人やその家族への直接的な支援を中心として施策を進めてきた。しかし、認知症との共生のまちづくりを推進していくためには、地域住民に加え、企業や団体等と連携促進の必要があると考え、令和2年度から民間企業への働きかけを開始。「認知症の人が自ら選択できる生活スタイル」を念頭に、買い物などの消費行動が自分で行えること、認知機能の低下があっても、苦手な部分を補うことができるような仕組みが店舗企業に取り入れられることが、市の目指す「まちづくり」になると考え、まずは、市の中心的なショッピングモールへ働きかけを開始。最終的には、金融機関や鉄道会社等の多業種で、認知症にやさしいサービスが展開されることを目指している。

◇活動内容とその成果

令和2年よりイオンモール大和との協働促進に向けた協議を実施。意見交換を重ね、コロナ禍でも実施できることとして、認知症の普及啓発に関する展示や認知症の人とイオンモール大和従業員との接点構築（本人ミーティングや認知症カフェへの参加）、認知症サポーター養成講座の開催等を提案。

① ショッピングモールでの認知症キッズサポーター養成講座の実施

・R3.7.29及びR3.8.9の両日、イオンモール大和内で夏休み期間中の小学生を対象に、講座を開催。認知症に対しての知識を持ち、理解するための内容。図書館職員と共に認知症関連図書の紹介を行う。児

活動成果報告書

童の学びの機会となったばかりでなく、買物客が講座に関心を持つ様子が見られた。

R3. 7. 29, 8. 9 キッズサポーター養成講座



② 認知症普及啓発に関する掲示の実施

・R3. 6. 14～18 「認知症のもしも」

「もしも 気になるようでしたらお読みください」（認知症介護研究・研修仙台センター作成の冊子）をポスター展示。買い物客や店舗従業員の方の「認知症の捉え方・受け止め方」を変えるきっかけとすることが狙い。気づきを促す内容を優しい言葉とイラストのストーリー形式で描かれている。

・R3. 10. 4～8 「認知症とともに暮らすまちやまと展」

認知症 1 万人時代条例の施行に合わせて開催。「共生」と「予防」のテーマ展示。「共生」には条例の内容や理念に加え、「あなたが望むやまとでの暮らし」と題し、認知症のご本人が希望を記した「ひとことカード」をポスター展示。認知症の人の思いや希望を知ってもらう機会となった。「予防」は、認知症予防の考え方、軽度認知障害（MCI）やコロナ禍でも出来る認知症予防について周知を行った。

< 掲示の様子 >

R3. 10 「認知症とともに暮らすまち やまと展」



③ イオン大和鶴間店従業員向け認知症サポーター養成講座の実施

・R3. 12. 11 スーパー従業員向けの内容で講座を市職員、認知症地域支援推進員（認知症コンシェルジュ）と共に実施。店舗で実際に起こると想定される「レジでの支払い」や「同じ商品を何度も購入」する人への対応を DVD 教材で視聴。悪い対応例を視聴した後、自分ならどう対応するかを考え、その後良い対応例を視聴して実践できるように工夫。参加者からは、「何に困っているか、優しく声を掛けたい」「対応に困ったら一人で抱え込まず、周り相談したい」「地域の相談窓口地域包括支援センターがあることが分かった」と受講をきっかけに今後の対応に前向きに取り組む姿勢へと変化が見られた。

活動成果報告書

④ 認知症の人との意見交換会

・R3.12.1 にイオンモール大和で認知症の人を交えての「意見交換会」を開催。「大和市であなたのぞむ暮らし」と題して、参加者それぞれのこれまでの生活やこれからの夢や望みについて意見を交わした。発言の内容はポジティブなものだけでなく、欲しい支援も含めて活発に意見が交わされた。参加者からは「また参加したい」という声も挙がり、意見交換会のニーズを感じることができた。当日はイオン(株)CSR 担当者が参加。認知症の人が日頃、どのように日常生活を送っているか、どのような意見を持っているのかを知ってもらう機会となった。この場で、各地域包括支援センターに配置されている認知症地域支援推進員（認知症コンシェルジュ）とイオン(株)担当者との顔つなぎが実現し、次年度は、複数店舗で今年度同様のイベントや事業を実施できる見込みとなった。

R3.12.1 意見交換会



◇今後の計画

○認知症普及啓発に関する掲示と相談窓口の開催（R4.2.28～3.4）

・R4.2.28～3.4「認知症のもしも・・・まちかど相談室」と題して、イオンモール大和1階にて認知症に関する普及啓発の掲示と共に、専門職による相談窓口を設置し、認知症に関する相談を受け付ける。市内のショッピングモール内で専門職による相談窓口を設けることは、今回が初めての取り組みとなる。相談対応には、市職員だけでなく、認知症コンシェルジュ（認知症地域支援推進員）や各地域包括支援センターの職員が交代で行うこととなった。また、市民に地域包括支援センターと認知症コンシェルジュの存在をより身近に感じてもらう絶好の機会と捉え、各包括及び認知症コンシェルジュが関わっている事業周知用の、チラシの配架や案内等の掲示も併せて行う予定としている。

○本人ミーティングの継続開催

・今年度開始時から目標としていた本人ミーティング（意見交換会）をイオンモール大和で開催することができ、次年度も継続して開催していくことを計画。チームオレンジの活動とお買い物ツアーの実現に向けて、本人の「あったらいい買い物、できたらいい買い物」のニーズを掘り起こし、サポートできる仕組みづくりの構築をめざす。

○市内イオン各店での認知症サポーター養成講座の開催

・スーパー従業員が実際の売り場で対応しそうな事例を使い、より実践で役立つような内容で実施を計画。また、認知症地域支援推進員（認知症コンシェルジュ）が行っている認知症になった自分へ手紙を書く「希望の手紙プロジェクト」等を取り入れ、認知症を自分ごととして考えられるような仕掛けづくりに挑戦していく。

【認知症「希望の手紙プロジェクト」イメージ】

希望の手紙プロジェクト

～認知症と出会った日の私とあなたへ～

認知症になった私に、あなたにメッセージを送ろう！

9月はアルツハイマー月間です。将来認知症になるかもしれない自分へ、認知症だった家族へ、現在・過去・未来の認知症になった相手に向けてメッセージを送ってみませんか？書いて頂いたメッセージは掲示・冊子にして配布する予定です。

「希望の手紙プロジェクト」は福地地域包括センターの企画です。渋谷図書館も参加します。